

第12回通常総会

2006年3月15日（水）

言語処理学会

The Association for Natural Language Processing

第12回通常総会次第

日時 2006年3月15(水)13時～14時

会場 慶應義塾大学(日吉キャンパス) 第4校舎 B棟 1階 J11教室

総会次第

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 2005年度優秀論文賞, 第11回年次大会優秀発表賞の表彰
4. 議長選出
5. 2005年度事業報告
6. 2005年度決算報告、監査報告
7. 2006年度事業計画提案
8. 2006年度予算計画提案
9. 2006年度評議員構成
10. 2006年度役員構成
11. 会則改定の審議(顧問人数制限の変更)
12. 閉会

以上

2005年度事業報告

1. 概要

言語処理学会の主要活動であります雑誌「自然言語処理」の発行および年次大会の開催を計画通りに進めました。「自然言語処理」に関しては、通常号とともに、特集号を企画・発行しました。会費徴収を含む会員管理業務の委託先を昨年変更いたしました。よりよい会員サービスを目指して改善を図ってまいります。

言語処理学会では英文論文の刊行を目指しておりましたが、なかなか進展がありませんでした。昨年、情報関連6学会の英文論文をJ-Stageから電子アーカイブとして公開する計画が進み、言語処理学会も参加することになりました。海外へむけての研究成果の発信が急務である現状からみて一歩前進と考えます。

第11回年次大会を2005年3月14日(月)～18日(金)まで、香川大学工学部で開催しました。チュートリアル3件には98名が参加し、本会議には、講演発表229件、ポスター発表87件の合計316件を得て、545名の参加者がありました。また併設ワークショップ1件では、合計14件の発表が行われ、延べ82名の参加がありました。

2. 会員現況 (2005年12月7日現在、増減は2005年2月28日との比較)

正会員	676 (+25) 名
学生会員	123 (+22) 名
賛助会員	14 (+2)組織 (16口 (-2))
定期購読会員	52 (+4)組織 (55口 (+2))

3. 会誌の発行

第12巻第1号(2005/1/10発行、通巻49号)

巻頭言、論文6編、訂正記事、入会案内・執筆案内等会告

第12巻第2号(2005/3/31発行、通巻50号)

巻頭言、論文9編、技術資料1編、入会案内・執筆案内等会告

第12巻第3号(2005/7/10発行、通巻51号)

巻頭言、論文 10 編、入会案内・執筆案内等会告

第 12 巻第 4 号(2005/8/16 発行、通巻 52 号)「コーパス言語学・言語教育と言語処理」特集号

巻頭言、論文 11 編、技術資料 1 編、入会案内・執筆案内等会告

第 12 巻第 5 号(2005/10/10 発行、通巻 53 号)

巻頭言、論文 8 編、技術資料 1 編、入会案内・執筆案内等会告

第 12 巻第 6 号(2005/11/10 発行、通巻 54 号)「質問応答・自動要約」特集号

巻頭言、論文 6 編、入会案内・執筆案内等会告

商業的であっても、研究に有用なものであれば会誌への広告掲載ができるものとし、ニュースレターおよびホームページに案内を出しております。

4. 第 11 回年次大会の開催

開催日： 2005 年 3 月 14 日(月)～18 日(金)

会場： 香川大学工学部 (高松市林町 2217-20)

プログラム

[チュートリアル講演] (3 件) 3 月 14 日(月)

- ・「テキストと語彙の間 - 語の重みづけ尺度の意味付けをめぐる -」 影浦 峯氏 (国立情報学研究所)
- ・「世界の文字と文字コード」 三上 喜貴氏 (長岡技術科学大学)
- ・「統計的識別の理論と実際 - テキスト分類への応用を目標に -」 坂野 鋭氏 (NTT データ)

[招待講演] (2 件) 3 月 17 日(木)

- ・「日本語の 2 種のモーダル助動詞: 推論の二つの方向性」

田窪 行則氏 (京都大学大学院文学研究科行動文化学専攻)

- ・「ことばの起源再考」

正高 信男氏 (京都大学霊長類研究所)

[一般発表 講演発表] 3月15日(火)～17日(木) 発表件数 229件

[一般発表 ポスター発表] 3月15日(火)～17日(木) 発表件数 87件

ワークショップ 3月18日(金)

・「評価型ワークショップを考える」 発表件数14件

参加者数	事前申し込み	当日申し込み	合計
本大会参加者数	466	79	545 (+38)
チュートリアル	85	13	98 (-26)
ワークショップ	76	6	82 (-132)

年次大会優秀発表賞

第11回年次大会プログラム委員会は年次大会優秀発表賞選定委員会を兼ねて審議を進めた結果、次の6件の講演発表を第11回年次大会優秀発表賞として選定しました。

(1)優秀発表賞(理工系)

B5-1 「テキスト処理による画像の多義性解消と事典検索サイトへの応用」

藤井敦, 石川徹也(筑波大)

C3-3 「形態素周辺確率を用いた分かち書きの一般化とその応用」

工藤拓(NTT)

D1-4 「基盤化に基づく修復発話の理解」

船越孝太郎, 徳永健伸, 田中穂積(東工大)

D4-5 「人間の第二言語能力との比較による音声認識性能評価」

竹澤寿幸, 安田圭志, 水島昌英, 菊井玄一郎(ATR)

S3-4 「要望表現の抽出と整理」

金山博, 那須川哲哉(日本IBM)

(2)優秀論文賞(文系)

S5-3 「感覚・知覚領域を起源に持つ英語形容詞の意味拡張の調査・分析」

進藤三佳, 内元清貴, 井佐原均(NICT)

まとめ

四国で初めての大会を香川大学工学部の講義棟で実施しました。当初、発表件数の減少など懸念されましたが、過去最高であった前回10回大会をさらに上回る発表件数となりました。ただ、ポスター会場では、十分なスペースが確保できず、混雑してしまったことは反省すべき点でした。

発表賞の選考は発表数が多いということから審査員の確保が非常に難しくなり、座長の方にさらにもう一つのセッションの審査をお願いするということになりました。当初予想した発表数の2倍の応募があったので緊急避難的な措置ではあったのですが、座長の先生方の負担が大きかったのではないかと危惧されます。

5. ニュースレターの発行

2005年度は、ニュースレターVol.12 No.1～No.5の5号を発行し、学会運営、大会案内、会議報告など会員への各種情報の提供を行いました。

6. 会議

理事会

計4回の理事会を開催し、新入会員の承認、年次大会の方針、情報関係英文論文合同アーカイブへの参加について審議し決定しました。また、学会活性化の具体策、および長尾ファンドの活用方法についても議論しました。

理事会開催:

第56回 (2005年3月15日、香川大)

第57回 (2005年6月17日、東大)

第58回 (2005年9月26日、東大)

第59回 (2005年12月13日、東大)

編集委員会

2005年中に4回の編集委員会を開催し、自然言語処理に掲載する論文の審議をしました。また、この間、電子査読システム RACCO を使用し、迅速な査読に努めています。

ここ数年、投稿数は増加傾向にあります。今年の言語処理学会への投稿件数は83件で、採録数は53件(技術資料を含む)でした。今年は特集号を2回発行したこともありますが、昨年の投稿件数48件、採録件数27件に比べて大幅に増加しております。

投稿件数の増大と投稿内容の多様性に適応するよう査読委員の方を増やし、査読が遅れないよう努力しています。投稿論文から見て言語処理研究の活性化が感じられます。インターネットへの応用など、さまざまな応用研究も行われていますので、今後は、実用化レベルでの研究論文についても期待したいところです。また、言語学や心理学などの学際的な研究分野についても研究がさらに活性化することを期待しています。

編集委員会開催:

第52回(2005年4月15日 東大理学部)

第53回(2005年7月15日 東大理学部)

第54回(2005年10月14日 東大理学部)

第55回(2006年1月13日 東大理学部)

英文論文アーカイブ(IMT)への論文掲載:

情報関連学会による国際的な電子ジャーナルとしての「情報関係英文論文合同アーカイブ(IT Archives)」に、第12巻掲載の英語論文(5件)を提供することとしました。

「原稿執筆案内」の一部修正:

以下の点について加筆修正等を行いました。

- (1) 学会依頼原稿に対する別刷の扱い(100部無料)の明確化
- (2) 査読後の照会の扱いについての手順詳細の明確化
- (3) 投稿原稿の書式の一部自由化
- (4) 原稿のハードコピー送付方法の詳細化
- (5) 掲載原稿の著作権規定の明確化

論文データベース検索サービスの実現に即した規定への修正

- (6) 中西印刷への編集依頼に関連する論文掲載料の変更

2005年度優秀論文賞の選定:

従来、論文賞は、1件を目途として選考する規定となっておりましたが、最近、採録論文数が増加したため、規定を改め、論文賞は、採録論文30件程度につき1件を目途に授与することにしました(平成18年1月の編集委員会で提案し、理事会で承認)。

これに基づき、2005年に出版された自然言語処理 12 巻 1 号から 6 号に掲載された論文 53 件から、2 件を目途に推薦することを目標に、以下の手続きで候補論文の選定を行っています。

(1) 第 1 次選考として、期間中の各号に掲載された論文のうち、査読点数が 5 点満点で 4 点以上の論文 24 件を対象に、1 論文あたり 2 名の編集委員が読み、10 点法で採点しました。

(2) 上記の結果、高得点を得た上位 10 件の論文を第 2 次候補論文とし、編集委員の全員が一人 2 票で投票を実施しています(2 月 24 日時点)。

(3) 過半数の得票を得た論文を論文賞候補に推薦し理事会の承認を得る予定です。

以上

2006年度事業計画

1. 運営・活動方針

2005年1月より学会業務の委託先を変更し、また新しい会員業務システムをスタートさせました。会員の皆様のご協力で特に大きな混乱もなく、安全な運営と効率的な業務処理が定着しつつあると思います。

さて、学会の主要活動として雑誌「自然言語処理」の発行、特集号の企画・発行、年次大会の開催、英文論文集発刊、英文誌発刊などを進めます。英文論文集としては、現在スタンフォード大学 CSLI との共同企画により、最近の「自然言語処理」に掲載された論文のうちから、日本語を対象にした言語処理の論文を選定し英文化して、CSLI から書籍として出版する計画を進めています。英文誌発刊に関しては、情報系のいくつかの学会(言語処理学会、情報処理学会、人工知能学会、ソフトウェア科学会、認知科学会、映像情報メディア学会)の論文のうち英文で公表された論文を対象に海外への発信を目的にした「情報関連英文論文合同アーカイブ」が、JST の電子ジャーナルシステムである J-Stage を利用して立ち上げられ、具体的な選定・編集作業に入っています。今年度以降も引き続いてこのような活動を推進します。

国際交流に関しましては、特にアジア・太平洋地域の関連学会の連合組織 AFNLP の活動への協力などを通じて言語処理学会として寄与していきます。今年度は特に長尾ファンドを用いた協力活動を COLING / ACL で行なう予定です。

また、国内においても自然言語処理技術の使用が一般に幅広く普及してきていますので、言語学分野に限らず、心理学、脳科学、社会科学などの分野とも連携できるような基礎研究の推進と、自然言語処理技術の更なる利用や応用分野の拡大に努めたいと思います。

2. 会誌の発行

通常号のほか、特集号を企画しています。自然言語処理分野で英文論文誌の発行や、現在の日本語論文誌の電子化を目指し、引き続き検討を進めます。

第13巻第1号(2006/1/10 発行、通巻55号)

巻頭言、論文6編、技術資料1編、入会案内・執筆案内等会告

第13巻第2号(2006/4/10 発行予定、通巻56号)

第13巻第3号(2006/7/10 発行予定、通巻57号)

第13巻第4号(2006/10/10 発行予定、通巻58号)

第14巻第1号(2007/1/10 発行予定、通巻59号)「感情・評価・態度と言語」特集号

特集号は、当初2006年内の発行を予定しておりましたが、2007年1月の予定へと延期しました。これは、年次大会で予定されている同一題名のワークショップの中からも、優れた発表についての投稿を期待し、投稿締め切りを延ばしたためです。

それ以降の特集号の予定は現在のところ未定です。

3. 第12回年次大会の開催

日時：2006年3月13日(月)～3月17日(金)

会場：慶應義塾大学 日吉キャンパス

- ◇ 3月13日(月) チュートリアル (10:00-17:30)
- ◇ 14日(火) 本会議 第1日 (9:30-18:30)
- ◇ 15日(水) 本会議 第2日 (9:00-18:00)
 - 総会 (13:00-14:00)
 - 招待講演 (14:00-16:00)
 - 懇親会@ファカルティクラブ (18:30-)
- ◇ 16日(木) 本会議 第3日 (9:00-18:00)
- ◇ 17日(金) ワークショップ/併設シンポジウム
 - ワークショップ(W1)「感情・評価・態度と言語」
 - ワークショップ(W2)「言語処理と情報可視化の接点」
 - 併設シンポジウム「言語資源の世界的協調」

4. ニュースレターの発行

学会ホームページと連携したニュースレターを電子的に編集し、学会メーリングリストを通じて電子配送します。

5. 会議

総会

通常総会を来年3月の年次大会に開催します。

理事会

昨年度同様に開催します。「自然言語処理」および年次大会予行集の電子媒体の会員配布、年次大会の開催、英文誌発刊の具体化などについて審議します。

評議員会

総会に合わせて2006年度第1回会合を開催します。賛助会員の増員に向けての施策、学会全体の活動の活性化に向けた施策、英文誌への取り組みなどについて議論します。

編集委員会

編集委員会を会誌の発行に合わせて開催し、電子メールを有効に使って迅速、かつ充実した査読を行います。特に、査読管理の電子化を進め、一層のサービス向上に努めます。英文論文誌および現在のジャーナルの電子化について引き続き検討を進めます。

6. 2006年度評議員構成

2004 - 2007 年度評議員		2006 - 2009 年度評議員	
氏名	所属	氏名	所属
石崎 雅人	東大	相澤 彰子	NII
川尻 博光	三洋電機	赤峯 享	NEC
菊井 玄一郎	ATR	荒木 健治	北大
木村 和広	東芝	伊東 秀夫	リコー
小林 雄二	キヤノン	宇津呂 武仁	京大
白井 英俊	中京大	遠藤 勉	九工大
仲尾 由雄	富士通	梶 博行	静岡大
久光 徹	日立	柏野 和佳子	国語研
増山 繁	豊橋技科大	工藤 孝史	札幌大
村田 稔樹	沖電気	佐藤 理史	名大
桃内 佳雄	北海学園大	白井 清昭	北陸先端大
		高山 泰博	三菱電機
		田中 英輝	NHK
		中澤 恒子	東大
		那須川 哲哉	IBM
		古瀬 蔵	NTT
計 11 名 (50 音順)		計 16 名 (50 音順)	

評議員選挙結果

本年度は評議員の改選の年にあたり、先日選挙を実施いたしました。その結果をご報告いたします。

投票資格を有する正会員数592名より245票の有効投票があり、内理事会が推薦した候補者16名全員を一括選定するものが231票ありました。投票資格者の10分の1以上の投票があり、理事会推薦候補者16名は全員その過半数の得票を得たことから選定されました。なお理事会推薦候補者以外にこの選定条件を満たす方はいませんでした。

7. 2006 年度役員構成

役員名	氏名	所属
会長	石崎 俊	慶應大
副会長(総編集長兼務)	池原 悟	鳥取大
理事(編集委員長)	橋田 浩一	産総研
理事(編集担当)	金水 敏	大阪大
理事(編集担当)	東条 敏	北陸先端大
理事(編集担当)	中岩 浩巳	NTT
理事(事業担当)	井佐原 均	NICT
理事(事業担当)	河原 達也	京大
理事(事業担当)	馬 青	龍谷大
理事(事業 / 渉外担当)	加藤 恒昭	東大
理事(渉外担当)	田村 直良	横浜国大
理事(渉外担当)	永瀬 治郎	専修大
理事(渉外 / 編集担当)	森 辰則	横浜国大
理事(財務担当)	斎藤 博昭	慶應大
理事(総務担当)	丹羽 芳樹	日立
	(以上 15 名)	
監事	飯田 仁	東京工科大
監事	仁科 喜久子	東工大
	(以上 2 名)	
顧問	長尾 真	NICT
顧問	田中 穂積	東工大
顧問	飯田 仁	東京工科大
顧問	辻井 潤一	東大
顧問	島津 明	北陸先端大
	(以上 5 名)	

会誌編集委員会 2006 - 2007 年度		
総編集長	池原 悟	鳥取大
編集委員長	橋田 浩一	産総研

総会議題7. 顧問の人数制限に関する会則の変更について

会則第4章第11条(役員および評議員の構成)(全文は下記囲み内を参照)において

(現行) 顧問は5名以内

とあるところを

(改定案) 顧問については特に人数制限を設けない

に変更することについてご審議いただきたい。

(理由) 学会設立から10年以上を経過し、顧問として運営活動を支えていただきたい方が増えているため。

第4章第11条(役員および評議員の構成)	
役員および評議員は正会員をもって構成する。	
1) 役員	
会長	1名
副会長	2名以内
理事	8名以上, 15名以内(会長および副会長を含む)
監事	2名
顧問	5名以内
2) 評議員	
評議員	20名以上, 40名以内

以上